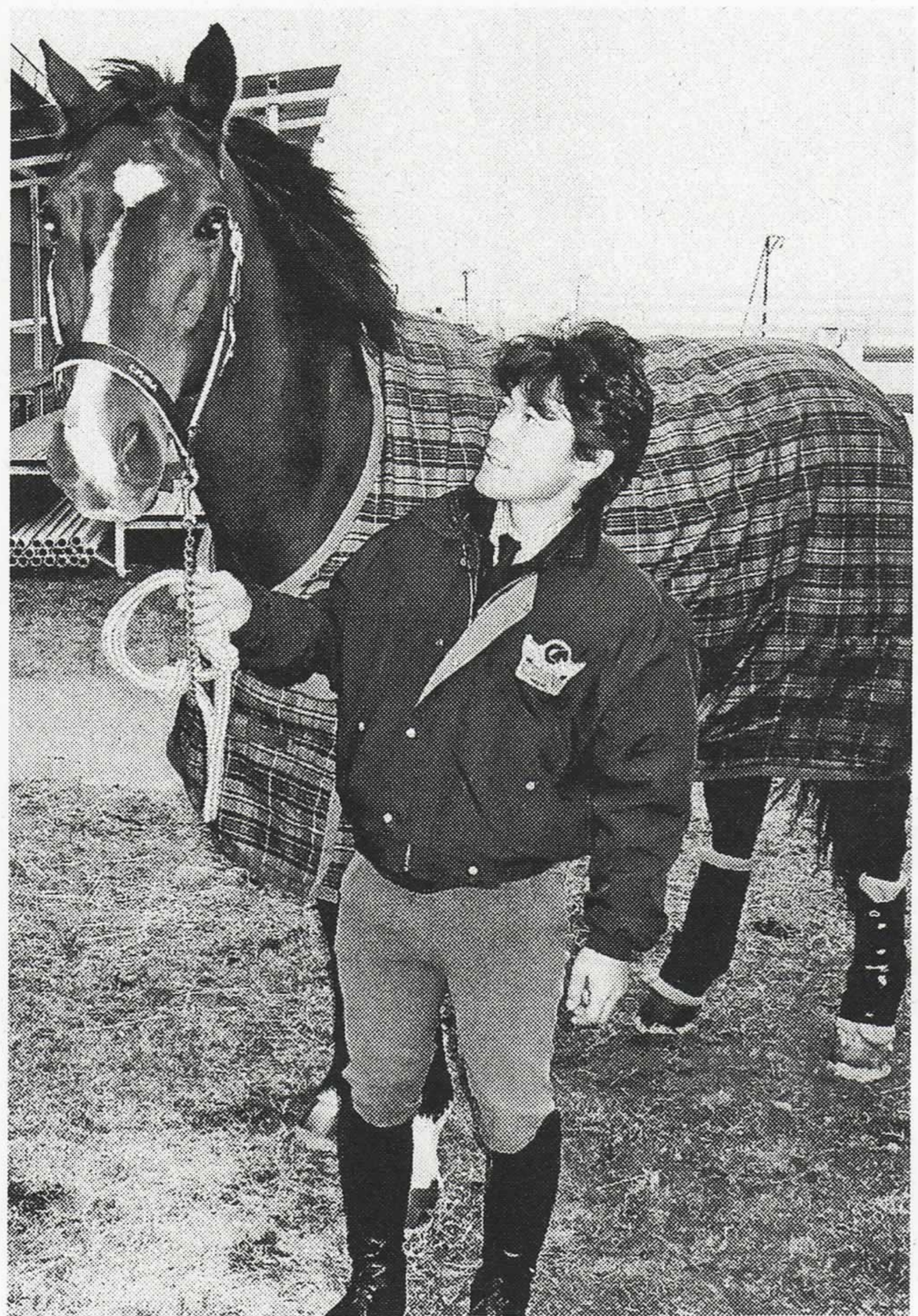


■馬術の世界最高峰「F E I (国際馬術連盟)ワールドカップ」に挑むキープ号と榎井俊樹さん(40) ■

今年4月、スイスで開かれる馬術競技の世界最高峰「F E I (国際馬術連盟)ワールドカップ」に、「キープ号」ユアタツチ号」と榎井俊樹さん(40)の福岡コンビが出場する。高い能力を持ちながら気性の荒さから「大成は難しい」と烙印を押されたこともあるキープ号。乗馬クラブ「クレイン福岡」の所長を務めるベテラン騎手の榎井さんが巧みに乗りこなす。目指すは決勝進出だ。

コンビが挑戦するのは、コース上に設置された十数個の障害や池を飛び越える「障害飛越」のうち、最も高い160センチの障害を飛ぶ「大障害」。馬の身体能力と、能力を引き出すための騎手の力量が問われる。コンビの出会いには6年ほど前。榎井さんが、競技用の馬を訓練するクレインオリピックパーク(奈良県天理市)で、故郷のオーストラリアから運ばれたキープ号を見た。「こんな大

「大暴れ」コンビ復活



きな馬体なら大障害も飛べる」と直感したという。間もなく担当騎手になった。

榎井さんの予想通り、キープ号はスケールの大きな馬だった。が、気性の荒い欠点があった。馬を止めようと手綱を引けば、反抗して引っ張り返し、後

馬術競技の世界最高峰「F E I」に挑戦する榎井さんとキープ号。福岡市東区のクレイン福岡

ろ足だけで立ち上がって飛び跳ねる。騎手を振り落としたこともたびたびだったというキープ号。榎井さんが半年ほど担当騎手を務めても改善せず、大会では障害を前に立ち止まったり、暴れ出したりと、成績は安定しなかった。

一時はコンビを解消したが、平成19年2月ごろから再びコンビを組むことに。「大障害を飛ぶ力はある」と、榎井さんはキープ号の潜在能力を信じ、落ち着くことを根気強く調教した。そのかいあってキープ号の気性は徐々に安定。昨年の国内大会で好成績を残し、ワールドカップ出場を決めた。

「今も暴れ癖は治っていません。障害のないところで飛び跳ねたりして、騎手仲間から『なぜこんな馬に乗ってるのか』とからかわれることもたびたびです」と榎井さんは笑う。それでも、「気性の荒さは、障害に向かっていると長所にもなりますよ」と、キープ号の手綱さばきに自信もぞかせた。

九州・山口

ニュースのご連絡は九州総局

TEL 092 (741) 7088  
FAX 092 (726) 2572  
kyushu@sankei.co.jp

〒810-0004  
福岡市中央区渡辺通  
5-23-8  
サンライトビル3階

山口支局

TEL 083 (923) 3333  
FAX 083 (923) 3334  
yamaguchi@sankei.co.jp

〒753-0074  
山口市中央3-6-2

購読のお申し込みは

0120 (34) 3733  
www.sankei9.com

販売のお問い合わせは  
TEL 092 (741) 2323

広告のご用は  
TEL 06 (6633) 9474